

富士市C N F 関連産業推進構想
第3期 アクションプラン
【概要版】

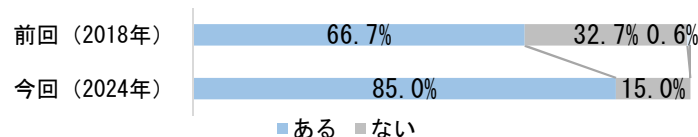
2025～2027年度

C N F 等セルロース材料を基軸とした
産業エコシステム拠点の形成に向けて

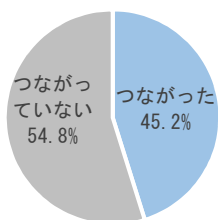
2025年3月
富士市

C N Fを取り巻く現状・市内事業所等の実態等

■ 市内事業者のC N Fに関する認知度



■ 富士市の取組を通じて、新たな活動・事業展開につながったか (市内プラットフォーム会員回答)



C N Fの認知度は向上しており、富士市の取組を通じて新しい連携や事業展開が生まれてきている

■ 富士市C N F関連産業推進懇話会からの意見等

- ・ 継続した取組が重要
- ・ 認知度の向上の深掘りがC N F活用の裾野を広げる
- ・ 社会実装の成功事例を増やしていくこと、世の中の流れ、採用等実績等の掛け算により市場が創られる
- ・ オープンイノベーションによるスタートアップ等との新たな連携創出によるビジネス化の支援が重要
- ・ オープンイノベーションを実践し、ビジネスマッチングを後押しする環境づくり＝「拠点」が求められる

これまでの取組の継続と精査、次のステージに進む取組や環境づくりが求められている

課題の抽出と整理

課題 1 C N Fの利活用に関する裾野の拡大

- ・ C N Fの認知度は向上しているが、どんなことを知っているか、何に関係してくるのかなど、もう一歩掘り下げて認知してもらうことが重要
- ・ 実用化や社会実装事例を通して、特徴や機能、用途などが見え、身近なものとなるよう裾野の拡大を図る取組の強化
- ・ C N Fを知らない層に対し、循環経済、資源循環、リサイクルなど、幅広いテーマを用い、直接アプローチする機会等を設け、新規参入やプレイヤーの増加を図る
- ・ 市民や消費者に対してもC N Fの更なる周知・P Rを通して、環境配慮型製品等の選択や環境に対する新たな価値を認識

課題 2 マッチングの効率化と共創事例の創出

- ・ シーズ側から「これはこのような材料」「このような所に使えないか」「嬉しさはこれです」などの展開と、ユーザー側の「このような材料を求めている・使いたい」「これだったらここに使える」などのニーズを引き出す
- ・ 市内中堅・中小企業の参入による新規事業創出やプラットフォーム内外を問わない広域的な異分野・異業種、スタートアップ等との連携により、用途展開や製品開発を共創で進める
- ・ 大学等との連携や民活型での取組を後押しし、サプライチェーン構築や市場形成に向けた事業展開ができるよう、テクノロジープッシュとマーケットプルとのマッチングや共創を図る環境づくり

課題 3 企業のビジネスにつながる環境の整備

- ・ 機能や用途に注目した具体的な成果が、他の事業者との連携やビジネスに向けたヒントが生まれる
- ・ C N Fの環境性能を具体化し、明らかにすることで、ユーザーやコンシューマーの嬉しさや購買意欲を向上させるとともに、循環経済やローカルビジネスといったモデルを確立する
- ・ 富士市C N Fブランド認定等によるC N F利活用事例の共有と横展開を図るとともに、プロモーション推進活動など、ビジネスツールの活用やビジネスにつながる機会の創出



時代や社会の潮流・情勢、国や県・他地域等の動向、第2期アクションプランの進捗状況、市内事業者及びプラットフォーム会員の実態、富士市C N F関連産業推進懇話会における意見、導き出された課題を踏まえ、第3期アクションプランを策定

第3期アクションプラン

- ❑ 製品化等の事例が創出され、着実に成果が出てきており、これまでの取組をビジネス化や産業化に昇華するための場や機会が重要
- ❑ 富士市において、C N F等セルロース材料に関わる様々な企業や人材を生み、育て、つながり、循環する機能や役割となる「環境＝産業エコシステム拠点」の構築が必要
- ❑ 目標達成に向けて、整理した課題に対応するとともに、富士市C N Fプラットフォームの事業構造（知る場、触れる・作る場、つながる場・実施の場、展開の場）と整合した3つのアクションを実施

第3期アクションプラン目標

C N F等セルロース材料を基軸とした産業エコシステム拠点の形成

拠点

様々な企業や人材を生み、育て、つながり、循環する機能
富士市をフィールドにビジネス化・事業化へ取り組む場・機会

アクション1 C N Fの認知度の向上・活用に向けた裾野の拡大

「C N Fを知る」の深掘り、「触れる・作る」機会の拡充、新たなC N F活用層の掘り起こし

＜具体的なアクション＞

- C N Fの実用化や社会実装に関する情報発信・提供 【知る場】
- サンプル提供や実習等を通じた「触れる」「作る」機会の拡充とG X人材育成 【触れる・作る場】
- 起業・創業、スタートアップ創出等につながる新たな活用層の掘り起こし 【知る場、触れる・作る場】
- プラットフォームの情報発信、市民等への普及啓発の拡充・強化 【知る場】



アクション2 マッチングとオープンイノベーションの場の創出

ユーザーニーズの引き出しや把握、異分野・異業種、スタートアップ等との連携、共創やオープンイノベーションの促進等に取り組み、これらを実施する拠点の形成に向けた展開

＜具体的なアクション＞

- 目的や使う側のニーズを起点としたマッチング・応用分野別の勉強会 【つながる場・実施の場】
- 異分野・異業種、スタートアップ等との連携の機会 【知る場、つながる場・実施の場】
- 共創やオープンイノベーションを促進する場 【つながる場・実施の場】
- 世界とつながるビジネスマッチング国際展示会の開催 【つながる場・実施の場、展開の場】



アクション3 実用化・社会実装事例の掛け算によるビジネス化の後押し

実用化・社会実装事例を増やし、事例の共有と横展開を図るとともに、循環経済やローカルビジネスモデルの創出など、ビジネス化へつながる後押しを展開

＜具体的なアクション＞

- C N Fの機能や用途に注目した具体的な成果の共有・横展開 【知る場、展開の場】
- C N Fの環境に対する貢献度や環境性能の具体化 【知る場、展開の場】
- 循環経済やローカルビジネス、スタートアップ型ビジネスの創出 【展開の場】
- 成功事例の蓄積によるブランド化とプロモーションの推進 【展開の場】



推進構想の成果指標の改訂

推進構想は、2030年までの長期の計画期間であり、既に2030年の最終目標値が達成されている指標があることから、硬直化しないよう進捗状況や中間検証等を踏まえ、第3期アクションプランの策定にあわせて次のとおり改訂します。

<推進構想に基づく成果指標（改訂版）>

	方針	指標	基準値	中間値 2027年	目標値 2030年	現状値 2024年度
1	CNFの理解促進	市内事業者のCNFの認知度	66.7% (2018年度)	90.0%	95.0%	85.0%
2	CNFの活用促進	CNF関連補助金の活用件数 (累計)	25件 (2019～ 2023年度)	45件	60件	30件
3	CNF・地域産業の拠点と ネットワーク形成	プラットフォーム活動を通じて新たな 連携、共同事業、商談等が生まれ た市内事業所数	－	22社	30社	14社
4	CNFの事業化推進	CNFを活用し、製品化した 市内事業所数	1社 (2017年度)	24社	30社	16社
5	CNFのまち ブランド育成	富士市を「CNFのまち」と思う 市内企業の割合	－	55.0%	60.0%	49.6% (※)

※2024年度の数値は、市が実施している取組のうち「富士市CNFプラットフォーム」の認知に関する回答割合

<参考指標（富士市工業振興ビジョン等に示す成果指標）>

指標	基準値	中間値	目標値
製造品出荷額等	1兆4227億円 (2018年)	1兆5300億円 (2023年)	1兆5839億円 (2026年) (※)
活気がある工業都市だと 思う市民等の割合	35.0% (2014年)	50.0% (2024年)	65.0% (2030年)

※2027年以降は、第3次富士市工業振興ビジョンを策定し、指標を設定する

第3期アクションプランの展開にあたって

第3期アクションプランは、推進構想に基づく施策の展開スケジュールの後期に入りますが、引き続き、目指すべき将来像「CNFでつながりひろがるものづくりのまち 富士 ～持続可能な社会を創るまちへ～」を目指し、CNF関連産業の創出・集積に向けて、着実な取組を展開します。

また、本アクションプランの目標である「CNF等セルロース材料を基軸とした産業エコシステム拠点の形成」を目指し、第1～2期アクションプランの取組や既存のプラットフォームの活動は、会員ニーズや要望を踏まえ、継続や拡充するとともに、ターゲットの明確化や産学官等の連携など、効果的な取組によって、「CNFの裾野を拡大」、「マッチングとオープンイノベーション」によるCNFの用途開発を一層進めます。

さらに、富士市CNF関連産業推進懇話会を定期的に開催し、アクションや成果指標など、専門的かつ先験的な立場からご意見等をいただき、具体的取組の立案・実行を図ります。

富士市産業交流部産業政策課（富士市CNFプラットフォーム事務局）

〒417-8601 静岡県富士市永田町1丁目100番地

TEL 0545-55-2952 / e-mail : sa-sangyou@div.city.fuji.shizuoka.jp

